

平成二十二年度、第三回瑞浪青年塾が中日本生涯学習センターで九月十九日（二十日）の一泊二日、二十六名（スポット参加含む）で開催されました。今回のテーマは「家族の絆」です。講義を名古屋中川モラロジー事務所の齋藤鎮治講師に、体験発表は、松阪モラロジー事務所の勝田展弘様にご担当頂きました。私たちの最も身近な家族について、共に語り、共に考える事が出来ました。



＜昨年からの始まった早期学習会の様子です＞

今回のテーマ「家族の絆」



＜講義を担当された齋藤講師＞



＜体験発表の勝田さん＞



＜体験発表・講義を聞いた後の＞
振返りの話し合いの様子です。



＜懇話会で皆さんと楽しい時間を過ごしました＞

今回の青年塾では、勝田様の体験発表、齋藤講師の講義を聴講しました。

初めに、勝田様の体験発表を聞いて印象に残った事は勝田様の両親は仲が悪かったのですが、母親が、近所のモラロジアンの方の紹介で瑞浪の講座受講をきっかけに、毎朝、「おはようございます」と挨拶しようとして提案し、挨拶を毎日することにより自然と家族間の会話も増え、父と母の夫婦仲が良くなったという話が印象に残りました。この話を聞いて私は、実家にいた時、全く家族に挨拶していなかった事を思い出したので、早速実行しようとして翌朝父に電話をして、挨拶をしました。すると父から、「おはよう、朝からお互いに挨拶をして気持ちがいいね」と返ってきました。この事から、私は家族



- 今回のメニュー**
- 1、鳥のさつぱり煮
 - 2、栗ご飯
 - 3、きのこ・シヤケのホイール焼き
 - 4、さつまいものお焼き

以外の人に挨拶をする事は、常識でも大事だと知っていましたが、家族同士の挨拶もとても大事だと気付きました。

次に齋藤講師の講義で印象に残った話は「小さな消防士」という実話です。その話は「アメリカのアリゾナ州にボプシーという白血病を患い、余命わずかな六歳の子どもがあり、母親が、消防士になりたいというボプシーの夢を色々な人の協力により一日だけ叶え、多くの人々に見送られながら、亡くなった。」という話でした。この話を聞いて、親が子に対する愛情のすごさに感動しました。そして日頃は、嫌な家族であっても、自分の事を世界中で一番心配して思ってくれているのは、家族であり、切っても切れない強い絆で結ばれているのだと気付かされました。

最後に、今回の講義を聞かせて頂きこれからは家族に対して、毎日挨拶をして、もつとたくさん親孝行をしようとして強く決心しました。

社会貢献活動のご紹介
ただ今、中日本生涯学習センターでは、ペットボトルのキャップを集めています。皆様、ご協力の程、よろしくお願い致します。

平成二十二年度瑞浪青年塾
参加者（スポット）募集中です。
瑞浪青年塾に参加を希望される方は、ドシドシご応募ください。
申し込み方法は電話・ファックス・メール等で受け付けております。

次回のご案内
次回の瑞浪青年塾はテーマ「人生における仕事とは」です。期間は十月十六・十七日。
講義担当講師は土屋晴義講師。
体験発表者は名古屋瑞穂事務所、天野智也さんです。スタッフ一同皆様を心よりお待ちしております。お誘いあわせの上、ふるってご参加下さい。

編集後記

今回の第三回瑞浪青年塾も楽しい研修会になりました。今回は少し変則的に日曜日から月曜日にかけて開催したということもあり、前回よりも少ない青年塾になりました。しかし、人数が少なかった分、話し合いも白熱し、内容の濃いそして楽しい青年塾になったのではないかと思います。今後の青年塾も楽しい事はもちろん、内容の濃い、更に多くの方々に来て頂けるように、努力したいと改めて思いました。

中 日 本 生 涯 学 習 セ ン タ ー
電 話 〇 〇 五 七 七 二 二 二
FAX 〇 〇 五 七 七 二 二 二
メ ー ル ア ド レ ス mizunami@morology.jp
こちらに出欠のご返事をください